

Asia Medical Massage Instructors Network
2009年3月AMINタイ出張
報告書

期間：平成21年3月15日～3月18日

参加) AMIN推進委員会：緒方昭広、楠山寛子

タイ視察日程

3月16日(月)	
8:00	日本財団千葉氏との事前打ち合わせ
内容	1. 日程確認 2. 打ち合わせ内容確認
10:30	ワットポー マッサージ店
目的	1. タイマッサージ体験 (晴眼者)
14:00	タイ盲人協会(TAB)
参加	タイ盲人協会:チャロン氏他1名 日本財団:千葉 AMIN:楠山
目的	1. タイマッサージ国家資格およびその研修についての状況確認 2. タイ盲人協会内視察
16:00	タイ盲人連合(TBU)との打ち合わせ
参加者	タイ盲人協会:モンティアン氏、サバニー氏他1名 視覚障害者雇用促進財団:ペチャラート氏 タイ女性盲人協会:会長他1名 コーフィールド財団:チャーリー氏他1名 タイ保健省:Dr. アンチェリー他1名 日本財団:千葉氏 AMIN:緒方、楠山
内容	1. タイセミナーについて打ち合わせ
3月17日(火)	
10:00	タイ盲人雇用促進財団
対応者	ペチャラート氏、ピシット氏他
目的	1. 国家試験受験資格認定のための講習会視察
PM	カノクウェート (視覚障害者マッサージ店)
目的	1. 視覚障害者によるマッサージ体験

3月16日（月）

○ワットポーマッサージ店

○タイ盲人協会

対応者：チャロン氏他

訪問：緒方、千葉、楠山、カンチット氏（通訳）

14時よりタイ盲人協会を訪問した。ホテルより徒歩10分程度の場所にあるが、近隣に点字ブロックはない。4階建ての建物の中には、視覚障害者用の用具販売、点字・デイジー図書館および録音スタジオ、盲人協会事務所等が入っている。点字図書館には、デイジー図書が並んでおり、これらは無料で貸し出しを行っている。遠方者には郵送での貸出もある。奥には1畳程度の広さの録音用のスタジオが6室ほどあり、ボランティア（学生が多いとの事）によって作成されている。

ここで話を聞くことが出来たチャロン氏は、視覚障害者でマッサージ分野では30年の指導経験があり、マッサージ店も5店舗経営している。現在はタイ盲人雇用促進財団で行われている国家資格受験資格に対応する講習に参加しており、タイマッサージ国家資格を取り巻く現状と、現在行われている講習内容などについて伺った。

前回（2008年9月）に訪問した際には、タイ医療マッサージの国家試験はまだ行われていないという話であったが、実際は2006年より行われているという。ただし現在は晴眼者のみで、視覚障害者の国家資格取得者は存在していない。2008年12月に、保健省、sososo（健康促進関係の機関で、資金的なサポートを行っている？）、タイ盲人協会で会議を行い、国家試験受験資格を得るためのカリキュラムについて話し合いを行った。その中で検討された内容は以下の通りである。

<カリキュラム>

医療マッサージ師助手300時間

医療マッサージ師800時間

教員1500時間（これはまだ話し合いの段階）

<学校認定基準>

1. 指導者最低5名
2. 教育する場所（広さ）があること

この話し合い後、1月よりペチャラート氏のタイ盲人雇用促進財団で、視覚障害者向けの講習が始まった。これは形としては保健省の伝統医療局がペチャラート氏の場所を借りて直接行っている講習ということで、指導者も伝統医療局から9名派遣されている。この指導者については、上述の通り今後どのような形で認定し

ていくかは未定だが、現在は150名が指導者として認定されている。(すべて晴眼者)認定基準としては、20年以上の教育経験を持ち、35歳以上で各団体や県知事などの推薦を得た者としている。2008年12月の会議で教員の教育について話し合われた内容としては、カリキュラムの時間数の他、そのカリキュラムに①研究法②教材の作成方法③教授法④語学・コンピュータなどを組み込むのはどうかという話し合いがされたようである。

現在タイ盲人雇用促進財団で行われている講習について(次の日ペチャラート氏に直接確認したこともここでまとめて記載する)

生徒数：50名(毎回欠席者などがいるので実質40名程度)

教師数：各授業1名ずつ(教師：生徒=1：50)

講習日：毎週火曜日9:00~16:30 2年間

内容：15科目800時間

午前理論/午後実技

1日6時間タイマッサージについて

教科書：なし。毎回授業を録音し、次の授業で配布。現在DAISY教科書を作成中

チャロン氏は現在行われている講習の問題点として①教材がないこと②理解する人と出来ない人の差が大きいこと③復習やレポートをしようにも資料など調べる手段がない、などを挙げていた。

○タイ盲人連合(TBU)との打ち合わせ

参加者：タイ盲人協会)モンティアン氏他2名

タイ視覚障害者雇用促進財団)ペチャラート氏

タイ女性盲人協会)会長他1名

コーフィールド財団)ジョセフ氏、ジョセフ氏の娘さん(財団職員)

タイ保健省)Dr.アンチェリー他1名(教育担当者)

午後4時より出張の目的の主であるTBUとの打ち合わせを行った。内容は主にセミナー開催について。議事録は以下の通り。

<議事詳細>

千葉)去年からタイ伝統医療マッサージについて日本側も勉強させていただき、だいぶ理解できた。その中で視覚障害者に対して医療知識を教えることについては特別な技術や知識がいるのではないかという点で、日本から支援できる。具体的には教育方法、教材、模型などの支援、教員養成の支援などが出来るのではないかと考えている。

ペチャラート) 教材ということだが、具体的にどのようなことを考えているのか？

千葉) 教材を日本から送るということは考えていない。タイと日本では異なると思うので。日本で使っている点字・デイジー、触図などの紹介と、それを使って実際どのように教育しているのかということをお教えされる。

人材育成責任者) このような会合は何度か始めているが、具体的な事が決まっていな。教材についても実際に使えるのか、見てみなくてはわからない。

ペチャラート) 5月にセミナーがあるということなので、実際に持ってきてもらえるのであれば、実際にセミナーの話をしたらどうか？

千葉) その前に、ここにいるコアメンバーに対して日本の教育について紹介したいがどうか？

モンティアン) カリキュラムは出来たが、それを視覚障害者に使うためにはさまざまな障害がある。そのため5月のセミナーには意義があると思う。一番知りたいのは社会がどのように、視覚障害者が医療を行うという事に対して信頼をもつようになったのかということ。そのためにどのような運動を行ってきたのかなどについて知りたい。

この後、緒方教授より日本の視覚障害者に対するマッサージ教育、特に晴眼者に対して行うのと異なる点について紹介。保健省の担当官より、日本の教育システム、晴眼者と教育の違い、卒後の就労先などについて、質問が上がった。

セミナー内容

目的) 視覚障害者も医学的知識を持って治療することができるということに関して信頼性を獲得する(クオリティの保証をどのように行うか)

背景) タイ国内では2007年度より国家試験が行われている(晴眼者のみ)法律の改正によって、視覚障害者も受けることが出来るようになったとはいえ、政府関係者(特に保健省など)や病院関係者の間で視覚障害者が本当に医療を行うことが出来るのかという、疑念が残っている状態。また、実際に視覚障害者に対して医療教育を行うということに関しては初めてということで、実際に晴眼者とどのように異なるのか、教材はどのようなものが必要なのか(触図の作り方等も含め)手探りの状態である。そこで、タイで今後どのようにするかはタイ側で選択してもらおうとして、日本ではどのようにしているか紹介してほしいとの要望。

内容)

視覚障害者マッサージに対する信頼性向上

国家試験と評価方法

指導法

※今後日本に対して質問を送るので、それに関するものを紹介してほしい

期間) 3日間程度

- ・ 1日目－信頼性向上

招待者＝特に保健省・病院関係者

- ・ 2日目－具体的指導法の講義

招待者＝タイマッサージ指導者（晴眼）

- ・ 3日目－戦略会議

開催準備の流れ（日本側として準備すること）

1. 日本側開催スケジュール決定（3月中）
2. 日本側からの発表内容案、日本で使用している教材サンプル提出→タイ側が調整、および質問等が日本側に送られてくる（4月）
3. 費用の見積りおよび参加者リストがタイより日本に送られてくる→確認の上送金

以上

3月17日（火）

○タイ盲人雇用促進財団

対応：ペチャラート氏

同席：ピシット氏、Kachondham 女史（Mahidol University 准教授）

毎週火曜日に、講習が行われているということで、実際の講習を視察した。その日の授業は婦人科（特に助産関係）についての講義であった。教室には約40名の生徒がおり、教壇に先生がひとり座りながら講義するという形。生徒の中で、点字等でノートを取っている生徒はおらず、教科書もないため、ひたすら聞いているという状態。ただし、講義の最後には積極的に質問を行うなど、熱心な生徒もいた。この日は、Mahidol 大学という教育機関の教員が、評価委員として授業の様子を見学しており、その後話をすることが出来た。

話の内容としては、9割が日本の制度について、Kachondham 女史が質問するという形であったため、この中では特に記載しないこととする。こちらからは、以下の質問がされた。

<講習について>

1. 理解度を図るための試験などは定期的に行われているのか。
→小テストは行っている
2. ノートも取っていない、教科書もない状態だがそれについての対策は？
→授業を録音し、次の授業の時に全員に渡している。教科書は現在作成中。

3. この講習を受講するにあたり、入学試験などはあるのか？

→ない。希望者は入ることができる。

4. 現在の受講者の学歴は？入学するために学歴の縛りはあるのか？

→今のところない。今回受講している生徒はすべてマッサージの経験者。今後は中卒が妥当？と考えている。

<国家試験について>

1. 現在50名の生徒が受講しているが、その中で何名程度合格させるというような目標はあるのか？

→特にない。2011年4月に試験が行われるので、2010年12月にピシット氏が推薦した者を受験させる予定。

○カノクウェート（マッサージ店）

視覚障害者の自立のために作られたマッサージ店。我々が今回訪れた店は、バンコクを中心に位置しており、この店舗で働くマッサージ師は晴眼者が多く、視覚障害者は1名のみであった。

以上